



小 牧 山

年頭号

編集・発行：小牧山発行委員会
小牧市春日寺 1-1
電話：0568-76-2191
内線 4055

※今後の編集の参考にするため
ご意見・感想をお待ちしています。



Facebook twitter ホームページ

2023年 隊司令年頭あいさつ



第1輸送航空隊司令 兼 小牧基地司令
空将補 渡部 琢也

小牧山の読者の皆様、明けましておめでとございます。

皆様におかれましては輝かしい新年を迎えることお慶び申し上げます。

昨年引き続き新型コロナウイルスの影響により、日常生活や勤務体系の変化に翻弄される事も多々あったことと思います。そのような状況の中、小牧基地ではトンガ王国国際緊急援助活動や航空機動衛生隊の災害派遣、ウクライナ人道支援助物資輸送など数々の任務を遂行して参りました。これもひとえに小牧山の読者の皆様、基地所属隊員並びにご家族の皆様からのご支援あつての事であります。旧年中に賜りました温かいご支援、ご厚情に本紙面を借りまして心より厚く御礼申し上げます。

さて、私が着任してから1年数か月が経過しましたが、昨年11月にはKC767の国外運航訓練に同乗する機会がありました。今回の国外運航訓練ではインド、モルディブ、そして初の運航となったイタリアの3か国の軍隊と交流し相互理解を深める

とともに、国外における運航能力の向上が図れたと確信しております。小牧基地は引き続き、与えられた任務の重要性を自覚するとともに、国際情勢への理解を深めて、我が国の国際社会における信頼醸成構築の魁となる、そのような基地でありたいと思っておりますので御協力の程、よろしくお願致します。

結びに、本年は約3年ぶりとなる『小牧基地オープンベース』を3月5日に開催する運びとなりました。未だ新型コロナウイルス感染が続く、その終息が見えない状況ではあります。本年こそ日常に戻る年となることを切に願います。皆様と共に笑みある年へ向け、感染症対策をはじめとする基本的な行動をひとつひとつ積み重ね、与えられた任務を着実にこなしてゆく所存であります。小牧山の読者の皆様にとつて本年が良き一年となりますよう、皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして新年の挨拶といたします。





第1輸送航空隊兼小牧基地准曹士先任
准空尉 鵜飼 俊哉

新年明けましておめで
とうございます。皆様
深く感謝致しておりま

謹んで新年のご挨拶を申
し上げます。旧年中は小
牧基地及び所属隊員に対
し格別のご厚情を賜り誠
にありがとうございます。

昨年小牧基地は、年明
けの1月からトンガ王国
への国際緊急援助活動を
行い慌ただしい1年の始
まりとなりました。

務や業務を滞りなく完遂
できたのも、隊員ご家族
をはじめ、小牧基地近隣
及び基地協力関係者皆様
の、ご理解ご協力の賜と

ターやホームページ等
お知らせ致しますが、あ
んな飛行機やこんな飛行

機も間近で見られるかも
しれません。各種イベン
トも計画していますの
で、是非ご来場頂き航空

ご理解を深めて頂きたい
と思えます。
結びに、本年が皆様に
とって幸多き年となりま

すよう祈念いたしまして
新年のご挨拶とさせて頂
きます。本年もどうぞよ
ろしくお願い申しあげま
す。



小牧基地協力会
会長 秦野 滋

新年あけましておめで
とうございます。

世界平和を祈念し、小
牧基地隊員の皆様のご活
躍をお祈り申し上げま
す。

併せて小牧基地協力
会々員のご多幸をお祈り
申し上げます。

昨年新型コロナウイ
ルスの脅威は残りつつ

も、社会は新しい生活様
式を取り入れ徐々に活気
を取り戻しつつあるよう
に感じる年でした。カ
ナワールドカップで
は、日本が強豪国を破り
躍進し、また、地元愛知

為です。
宇宙、サイバー、電磁
波といった新たな領域に
ついても対応していかな
ければなりません。隣国
である中国は継続的に高
い水準で国防費を増加さ
せ、軍事力を急速に強化
しております。また、中
国と台湾の関係について
も今後より注視する必要
があります。

北朝鮮における弾道ミ
サイル発射も継続的行
われて、昨年においては
日本海のみならず日本上
空を通過する弾道ミサイ
ル発射もあり油断出来な
い状況が続いております。

現下の状況のなか、我
が国の平和と安全を守り
抜くことができるのは自
衛隊のみです。

小牧基地協力会では、
小牧基地の隊員が任務を
全う出来るように可能な
限り支援してまいります。

新春を迎えます皆様の
ご健勝ご多幸をお祈り申
し上げます。

所在部隊長等あいさつ



第5術科学学校長
空将補 齋藤 拓也

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた素晴らしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は、第5術科学学校に対して深いご理解とご厚情を賜りましたことに心から御礼申し上げます。

寄与するため、10月から要員を教育課程に受け入れ、航空警戒管制に関する教育を開始しています。我が国を取り巻く安全保障環境は、一層厳しさを増しており、もはやどの国も一国で自国の平和と安全を維持することはできず、国際社会が一致して国際的な課題解決に取り組むことが不可欠となっており、上記の背景を踏まえ、第5術科学学校では、今後も着実に任務を遂行して参ります。結びに新年が皆様にとって希望に満ちた幸運多き年になりますようにお祈り申し上げます。

昨年が新型コロナウイルスが蔓延するなか、本校は創意工夫と基本的な感染症対策の継続により、教育機関として、航空防衛力に直結する対領空侵犯措置及び航空機の運航に携わる隊員の養成を滞りなく実施して参りました。また、フィリピンへの警戒管制レーダー移転に伴い、フィリピン空軍の警戒監視体制の強化に



航空救難団整備群司令
1等空佐 泉山 正司

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

航空救難団整備群では、全国に十五個部隊ある飛行部隊で使用される航空機の定期検査や、整備員の転換課程教育、救難機の地上シミュレータの整備等の任務を全隊員が一丸となり実施しています。

昨年は、徐々にですがコロナ前の状況へ戻ることができ、移動を伴う全国各地での訓練や、各部隊を巡回して行う品質管理検査等を数年ぶりに再開しました。現地だからこそ実施できることや直接行くからこそ確認できる様々な状況など、多くの成果がありました。

各種行事にも参加することができ、特に、七月の名古屋市平和公園における陸軍墓地清掃、十月の小牧まち美化ウォークと大山川クリーンアップでは、幹部会と准曹会の隊員がそれぞれの活動において気持ちの良い汗を流し親睦を深めることができました。

また、五月、七月に防衛監察の予備調査、本調査を、十月に航空総隊隊務安全等特定監察をそれぞれ受察しました。各監察に向けてコンプライアンス意識を高め、規則等の確認や部隊間相互点検を実施し本番に臨んだ結果、僅かな指摘事項はあったものの、全隊員の法令遵守に対する意識が更に高まり、より強靱かつ健全な部隊へ進化することができました。

年始にあたり隊員一同、自隊で定めた「整備群整備員綱領」を見つめ直し、誠実に、学び究め、範を垂れ、日々備え、一致協力する心構えを堅持して、信頼の翼たる航空機を提供するため職責を全うする気持ちを新たにしました。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



救難教育隊長
2等空佐 田村 明広

謹んで新春をお祝い申し上げます。皆様には健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、旧年中は多大なる御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大に伴う各種制約を受けつつも、UH-60J(Ⅱ)による飛行教育の実施、救難員課程及び機上整備員課程の基準等の見直しを行い、困難な状況にあっても将来を見据えた更なる飛躍へ繋がる年となりました。

その一方で、近年頻発する大規模な災害を受けて国民の自衛隊に対する期待は益々高まる中、新たな隊員の募集環境が年々厳しさを増す状況にあつては、限られた人材を多種多様な任務に対応できるように育成する「教育」の重要性が一層増しています。

本年におきましては、過去の反省を活かしつつ、信頼の確立と更なる能力の向上、UH-60J(Ⅱ)による航空士の術科教育の開始に向けての準備等を進めつつ、部隊で活躍できる救難機操縦者及び航空士の育成により一層努力する所存でございますので、旧年と変わらぬ皆様の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸並びに小牧基地の益々のご発展と安全をお祈りし、新春のご挨拶とさせていただきます。



小牧管制隊長
3等空佐 魚谷 幸彦

新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。昨年中は、小牧管制隊が賜りましたご支援、ご協力に感謝申し上げます。

昨年、小牧管制隊にあつては、コロナ禍による各種制約下にあつて、安全かつ効率的な航空管制業務を確実に実施するとともに、各種訓練による能力向上を着実に図り、上級部隊の航空保安管制群本部による教育訓練点検を受検し「良好」の評価を得ることができました。これも支えてくださる皆様のご理解、ご支援があるからこそ肝に銘じております。

今後とも小牧管制隊は、プロフェッショナルリズムを先輩から後輩に継承していくとともに練成訓練に真摯に取り組み、更なる精強化を目指し邁進してまいります。また、三方で、我が国を取り巻く安全保障環境は、依然予断を許さぬ状況が続いており、各種災害等に対する備え及び対処も大きな課題であり、小牧基地の果たす役割は益々大きくなるものと予想されます。

小牧管制隊は、今後関係部隊及び機関等との緊密な連携の下、各種事態に迅速に対応できる態勢を堅持するとともに、更なる精強化に向け努力を継続して参りますので、旧年を変わらぬ皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸並びに小牧基地の益々の発展と安全を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



小牧気象隊長
3等空佐 柳田 隆行

新年明けましておめでとうございます。「小牧山」をご覧いただいている皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、小牧気象隊は8月6日付をもちまして、気象ブリーフィング回数2万回(前回達成の平成24年1月8日から起算)を達成し、この功績により航空支援集団司令官から第3級賞状を授与されました。この功績は、小牧気象隊に現在所属している隊員だけでなく、これまで我が隊で活躍された諸先輩から続く地道な努力の賜であり、その努力に敬意と感謝を申し上げますと思います。そして今後もその努力を継続していけるよう、隊に根付いた良き伝統を継承していきたいと思っております。

このほか昨年は、我が隊保有の装備品である気象レーダー装置の定期修理及びこれに伴う移動式気象レーダー装置による代替運用を異状なく完了させることができました。これも、基地所在部隊の皆さまによる日頃からのご理解、ご支援によるものと深く感謝しております。

本年も、小牧気象隊は基地所在部隊の皆さまの任務及び訓練における気象ニーズに適時適切に応えるとともに、部隊精強化に全力を尽くす所存でありますので、旧年と変わらぬ皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆さまのご健康とご多幸並びに小牧基地の益々の発展と安全をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。



航空機動衛生隊長
1等空佐 赤松 潤子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年8月より航空機動衛生隊長に上番いたしました赤松と申します。

昨年の本項では田村前隊長が「来年も本年とは何かが違う新たな隊にしたい」と述べていました。この一年を振り返りますと、機動衛生ユニットを用いない患者搬送、C-12輸送機での初搬送等、新たな任務の経験を積むこととなり、これらの経験を時々のものとせず更にシンカするための踏み台として、各種訓練に励んで参りました。また、陸自衛生、米軍等と共同訓練や意見交換等を通じ連携を深めた他、昨年3月に開院した自衛隊人間病院ともささく訓練での患者引継ぎや教育部との連携等新たな関係を進めております。

本年の干支は「癸卯(みずのと)」。「癸」は十干の最後であることから物事の終わりと始まりを意味し、「卯」はうさぎのように跳ね上がるという意味があることから、これまでの努力が実を結び、勢い良く成長、飛躍するような年と言われております。また、「卯」は穏やかなうさぎの様子から安全、温和といった意味もあるそうです。世の中のコロナ禍が感染予防対策やワクチン接種などの努力により収束し、本年が皆様にとり心穏やかな活躍の年となりますよう祈念いたします。

航空機動衛生隊は、引き続き患者さんへ安心安全な航空搬送を提供すべく、航空安全にも留意しつつ訓練、研鑽に努めて参ります。本年もご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



警務隊長
1等空尉 石博 雅也

あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。旧年中は小牧地方警務隊の活動に多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

小牧地方警務隊は、部内の秩序維持の職務に専従する部署として、犯罪捜査のほか、部隊等の長の行なう規律違反の防止活動に協力しています。近年の犯罪態勢は社会情勢に応じて変化しており、個々の警官及び組織全体として複雑化・巧妙化する犯罪への対処能力を向上させる一方で、隊員皆様には最新の事例等を踏まえて有益となる防犯情報を発信できるよう日々努めているところです。

昨年は、航空警務隊副司令による警務業務査閲、いわゆる部隊査閲の受閲に向けて着々と準備を進め、3年に度となる大イベントを無事に終えることができました。特に、警務業務を遂行するのに基地所在部隊等との連携は不可欠なものです。これも支えて下さる皆様の日頃からのご理解とご協力があるからこそと感謝しております。

本年におきましては、航空幕僚監部による司法警察業務監査を受査する予定です。今後とも部隊の精強化を図るとともに、小牧基地における犯罪の抑止力となるよう努力を継続して参ります。本年も平穏な日々が過ごせるよう、小牧地方警務隊同、皆様と協力して邁進していく所存です。本年が皆様にとって多幸き年となりますよう祈念いたしております。